

OASIS の風

ナーシングホーム Japan

-hear your heart-

R3年 8月号



入居者様の声

**W・S 様：60代男性：脳梗塞
ナーシングホーム JAPAN 入居中
文字盤・ジェスチャー・ロパク・
スピーチバルブ使用**



入居当初は寡黙な方で口数少なく、ご要望等お話頂けず、信頼関係を築くまでに時間を要しました。主なご要望は自己喀痰でティッシュを大量に使うため、「ティッシュの箱の交換」と「排泄」「飲水」等です。お気持ちに乗らないのか、苦しさを感ぜられるのか 1日2回スピーチバルブを利用して発声を試みるも数分でやめられることもあるようです。

普段はご要望等あまりお話されない方ですが、今回広報誌作成のために大切な思い出をお聞きすることができました。

「入居の1年程前に脳梗塞になり寝たきりになる以前は、5年間溶接工として工場で勤めていました。酒と競馬が大好きで給料の大半を費やした。今、叶えたい望みは溶接工時代にお世話になった先輩に会いたい」と語っていただきました。

1時間余りの時間をかけお話ししていただきましたが、これからも筆談や文字盤を活用して、私たち看護・介護スタッフに語って頂けるよう取り組みたいと思います。

スタッフの声



**M さん：訪問看護師
ケアコール千種所属：5か月**

これまで医療依存度の高い方々と接する機会はあまりありませんでした。入職して半年、日々の業務でコミュニケーションからケアまで一から勉強させていただいています。

コミュニケーションが良いと、より良い信頼関係に繋がると思います。ケアをさせて頂く側、ケアを受ける利用者様、その想いが平行線であれば良いケアは生まれません。ケアをさせて頂く側は、常に利用者様に寄り添い、思いを受け止めていかなければと考えます。今後も利用者様、ご家族様とより良い時間を過ごさせて頂き、勉強させて頂きたいと考えます。

トピックス リモート交流会の報告



7月28日(水) ナーシングホームの入居者様同士を ZOOM で繋ぎ、初めてのリモート交流会を行いました。市内3つのホームから4名の ALS の方にご参加いただきました。

事前に自己紹介の動画やスライドを作成し、プロフィールや日々の日課、生活の工夫などをそれぞれ共有していただきました。現在の落ち着いた生活となるまでに、皆さん様々な調整や工夫をされてきた事が大変良く分かりました。

リアルタイムの質疑応答では、「好きなアニメはなんですか？」という質問があり、とても盛り上がりました。アニメや映画鑑賞が日々の生活に余暇として取り入れられており、それぞれに自由な時間を楽しんでいる事を実感しました。

コロナ禍で直接の交流はまだ難しい状況ですが、こうした ICT を活用する事で遠方の方とも交流ができるので、また次回も企画していきたいと思えます。(文：中島)

